

カトリック 仙台教区報

1999年 4月20日 No.135

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

☎(022)222-7371 FAX(022)222-7378

主は復活された

死の時を開き 生命へと移られた

復活徹夜祭で二十二名が受洗

復活節に三十三名が仲間

四月三日 司教座聖堂



復活の聖なる徹夜祭が、四月三日午後七時から、司教座聖堂に約四百名が出席して始まりました。この徹夜祭で二十二名に鷹背神父によって洗礼と堅信が授けられました。復活の聖なる徹夜祭は、大聖堂の前庭の光の祭儀によって始められ、主が死から復活して、新しい生命に移る火を

祝福し、その新しい火で復活のローソクをともしました。光の祭儀が終わり、ことばの典礼に入り、まず創世記(一章1節、26節〜31節)が朗読されました。「…神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」旧約の朗読が行われ、使徒

パウロのローマの教会への手紙(ロマ6・3〜17節)

「わたしたちは、洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それはキリストが御父の栄光によって、死者の中から復活させられたように、私たちが新しい生命に生きるためなのです。…このようにあなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きていくのだと考えなさい。」

マタイによる福音(マタイ28・1〜10節)が朗読され、鷹背神父は説教の中で、「人間は、死では終わらない。私たちは、イエスの復活を信じるから、永遠の生命があることを信じるのである。イエスは死に打ち勝った。人間に死後の世界がないと思っている人がいる。そしてこの世に執着する。それは悪である。生きていく中で、どうにもならないことがある。しかし復活を信じることによって、私たちが新たに下さる。それによって解決するのである。私たちを変えて下さるようお祈りしましょう。」

生命の泉

去る三月十二日の朝日新聞の一面を飾った教皇とハタミ・イラン大統領が握手している写真はとてもうれしかった。教皇の活躍は単に教会内部を固めるという意味に留まらず、立場の違いを越え、さまざまな人と積極的に会い人類共通の願いを共有しようとする姿勢は頼もしい限りだ。○教皇が自筆でサインする時自分の名前の後に「神のしもべたちのしもべ」とか「橋を架ける人」とかラテン語で書く習慣がある。このことを身をもって実践している姿に強い共感を覚える。下僕とは仕えることが仕事であり、教会に集うすべての人の仕事だ。橋を架けるとは孤立する人と出会うことだ。○教皇様が動くことに政治的な意図を云々する人もいるようだが、イエスのみ教えの極めて素直な実践に過ぎない。人の善意を信じこちから近づいてゆくというのには私たちのいただいた信仰そのままで。今すべての信仰者に求められているのは正しさの自己主張ではない。(守)

続いて、二十二名の洗礼と堅信の式が行われました。洗礼志願者と代父母が祭壇の前に出て、悪霊の拒否、信仰宣言を行い、司祭は移動しながら二十二名に洗礼を授けました。洗礼名の授与のあと堅信の儀が行われ、再び二十二名の一人ひとりに聖香油で、額に油を塗りました。

共同祈願のあと感謝の典礼に移り、聖体拝領では、この夜洗礼を受けた方々と代母代父が先に授けられ、派遣の祝福があつて、会衆全員が社会に派遣されました。

なお、復活節中に元寺小路教会では、三十二名が洗礼を受け、二名をプロテスタント教会から受け入れました。

復活祭のメッセーヂ

教区管理者

鷹背 達衛神父

主イエス・キリストのご復活をお慶び申し上げます。

私たちの信仰にとって一番大切なこの時期、益々信仰における仲間作りにいそしみたいと思います。キリシタンの殉教は同じ信仰を持った者同士の間意識、強い信頼関係があつたればこそ可能だったと言われます。迫害という緊急事態にあつては、弱い人間独りだけではとてもできそうにない殉教の覚悟も、信仰における仲間だという強い意識による結びつきがあつたからできたのだというのです。

お互いは信仰における仲間なのだ、口で言うことは簡単なことですが、その実行においては困難を伴っているのが現実です。

しかし、それがなければ、一致ということも、生きた共同体であるとも言われ得ないバラバラな人の集まりに過ぎないものになります。

私たちも、彼らと同じように、復活に対する信仰を持ち、復活に強い仲間意識を持つことができるよう、お恵みを乞い願います。

聖香油のミサ
4月1日(聖水曜日)
司祭の約束の更新

木村国基神学生と川崎忠紀神学生が

佐藤司教から朗読奉仕者に
選任される

三月三十一日 司教座聖堂

「主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊が私をとらえた。わたしを遣わして、貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。」(イザヤ六・1a-3a)

6a 8b-9)

「あなたの息吹をうけて」を全会衆が歌う中で、司祭団、佐藤敬一司教が入堂し、ミサは始まり、イザヤの予言、ヨハネの黙示録一章5節、ルカによる福音が読まれ、佐藤司教の説教(別掲)があつて、木村・川崎両神学生が、土井文雄神父から呼び出され、佐藤司教から朗読奉仕者に選任されました。

それはヨハネ福音書にあるように、大祭司キリストが弟子の足を洗う場面です。司祭という時ミサを捧げることが思い浮かべるのですが、足を洗う姿を思い浮かべることは少ないのではないのでしょうか。ヨハネが福音書を書いた頃には司祭の特権が始まっていたと思われまふ。つまり、弟子の足を洗われるイエス様の姿には当時の司祭にもこの教訓が生かされるべきだったのでしよう。

司祭は共同体の先頭に立つて人々の足を洗う努力をしない限り、司祭職に何か欠けていることになりまふ。私も司祭になる時、足を洗う司祭になりたいとは思わなかつた。ミサを捧げる司祭になりたいと思つて神学校に入って、それから進歩していない。今は教会の中で仕えるキリストの姿にスポットライトが当てられています。私たち司祭が少しでもキリストに近づくことが出来るように皆さんの祈りをお願いします。



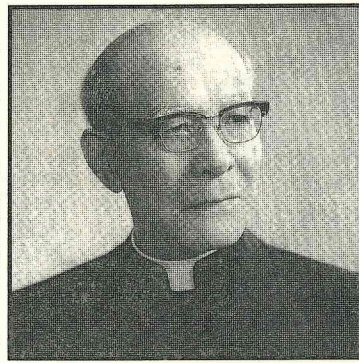
佐藤敬一司教 聖香油のミサでの説教要旨

私たち司祭が司祭職について

そのあと、三つの油(洗礼志願者の油・病者の油・聖香油)が祝別されました。

私たちが司祭が司祭職について

ステファノ斎藤石雄神父
(元司教総代理・
暁屋丁教会主任)



かねてから病(気療養中であつたステファノ斎藤石雄神父は、三月二十二日、スペルマン病院において、肺繊維症で帰天されました。八十九歳でした。斎藤石雄神父は一九一〇年三月八日福島県耶麻郡生まれ。一九三七年三月十七日ローマ・ラテラー大聖堂で叙階、一九三九年盛岡四ツ家教会。四一年会津若松教会、五〇年元寺小路教会、五七年石巻教会、七八年暁屋丁教会八四年司教総代理、八八年引退まで暁屋丁教会。
太平洋戦争中弾圧に耐え、宣教・司牧を行い、同神父の導きによって多くの信徒・司

祭が生まれた。

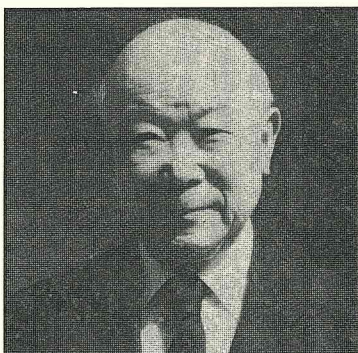
故斎藤石雄神父の通夜は、三月二十四日夜七時から、湯本教会主任吉田昌民神父司式で仙台司教区司教座聖堂で修道女・信徒ら約三百人が出席して行われました。
司式の吉田神父は、説教の中で「斎藤神父は、私の人生の節目節目で導いてくださった。斎藤神父の生き方を通して神を知ることができたといつてよい。」と面白いエピソードを交えて遺徳をしのび、通夜が大変楽しくもあり悲しくもありといったものでした。葬儀ミサは三月二十五日午前十一時から、教区管理者鷹背達衛神父、教区司祭団の司式で行われ、約四百名が出席して、斎藤神父の死を悼みました。
告別式は仙台中央地区暁屋丁教会の山田虎夫さんが弔辞を捧げ、喪主の鷹背神父が挨拶しました。

ペトロ本間重治神父
(元仙台教区社会福祉事業
専任司祭)

ペトロ本間重治神父(仙台教区司祭)は、三月二十六日スペルマン病院で、膵頭部癌で帰天。八十四歳。一九一五年二月十七日北海道函館市生まれ。一九五〇年八月二十九日函館元町教会で叙階。同年九月気仙沼教会。六十一年大河原教会・金ヶ瀬カトリック保育園、六十六年社会福祉法人カトリック児童福祉会常務理事、七十一年仙台教区社会福祉事業専任司祭、八十一年

ドを交えて遺徳をしのび、通夜が大変楽しくもあり悲しくもありといったものでした。葬儀ミサは三月二十五日午前十一時から、教区管理者鷹背達衛神父、教区司祭団の司式で行われ、約四百名が出席して、斎藤神父の死を悼みました。
告別式は仙台中央地区暁屋丁教会の山田虎夫さんが弔辞を捧げ、喪主の鷹背神父が挨拶しました。

宮城県社会福祉協議会老人福祉部長、八十七年特別養護老人ホーム「暁星園」園長。九十二年引退。
本間神父さまは、長年社会福祉事業に尽力し、老人ホームの人たちから慈父と仰がれ慕われました。
故本間神父の葬儀ミサは、



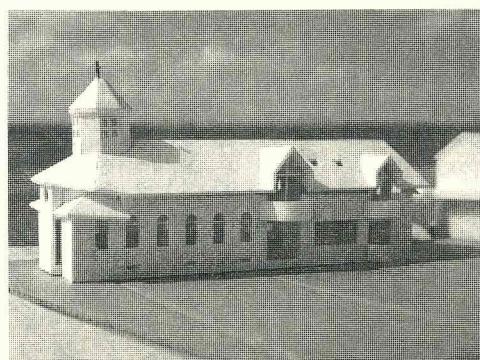
石巻教会新築工事

今年十一月完成予定

石巻教会は、昭和三十三年に建築されたので、老朽化が激しく、新築することになりました。

(株)エムアイティ建築研究所を設計業者と指定し、設計もきまり、近く実施設計・業者選定を行い着工。十一月には竣工する予定です。

新築するのは、聖堂と司祭館を一体化したもので、建築総額は約五千万円前後を見込んでいますが、五百万円程が不足するようで資金捻出に苦



慮しているところです。
一階床面積が聖堂と司祭居室で約六十三坪、二階は約二十六坪、総床面積は約九十坪の建物です。左の写真は完成時の石巻教会。

三月二十九日(月)午前十一時から、仙台司教区司教座聖堂(元寺小路教会)で、約三百人が出席して行われました。
ミサは、鷹背神父の司式で進められ、同神父は説教で、「口は悪いが、思いやりがあった。本間神父は暁星園を生涯ここで過ごしたいと思うような施設にしたいと言いつつその通りの最後を迎えました。」
告別式では、函館旭ヶ丘の家のカトリック・グロッド神

父の弔辞で「神父様は、ご老人を、もっと大事にしよう」と熱心に呼びかけたお一人でしたが、最後はご自分が障害をもった老人となった。ケアを受けるお手本まで残して下さった。日本のカトリック老人施設教会に大きな強い刺激を与えて下さった。
神父様、私たちが天国へ移って行くとき「出船」や「岸壁の母」を歌ったあの声で迎えて下さい。」と述べた。



教会訪問 「松ヶ丘カトリック教会」

青森駅西口から車で約十五分西へ進むと石江平山という所に松ヶ丘保養園がある。

一九三〇年ドミニコ会ベルランデルエン師によって宣教の種がまかれた。一九五七年一月七日「王たるキリスト」の聖堂として献堂された。ケベック国宣教会に引き継がれ現在はラヴォア神父(篠田教会と兼務)が司牧している。

信徒数は三十五名で毎週土曜日午後一時よりミサが行われている。ミサ後信徒館で神父を交えてお茶を飲みながら、分かち合いを行っている。病気が高齢の方が多いため活発な活動はなかなか出来ないが「甲田の裾」という本を年四

〓五回発行している。当教会の滝田さんは有名である。

ミサに参加する人が病気のため少なくなっているがミサの賛美の歌は不思議なくらいすばらしい。神との一致を感じさせずにはいられないと訪問者は言っている。

オルガンの奉仕をしてくれる人がいる。彼女は篠田教会に所属、家が近いこともあって毎週土曜日オルガンの奉仕をしている。「共に祈れる機会が私はすいお恵みだ。」と話しておられた。

神父様は、「皆さんの祈りの強さをいつも感じています。一度訪れてみて下さい。」

アキノさん

八戸塩町教会を訪問

元フィリピン大統領コラン・アキノさんが、八戸市制施行七〇周年記念の国際シンポジウム出席のため五月八日八戸市を訪れます。

アキノさんはシンポジウムで、「フィリピンにおける民主化」と題して記念講演を行い、翌五月九日曜日には、

債務帳消しキャンペーン

大聖年委員会

八戸塩町教会のミサにあずかり、午後四時から同教会で八戸市と同市周辺に住むフィリピン出身の人達と会い、「慣れない土地で頑張っている同胞に直接会い、勇気づけたい」との願いで話し合いの時間を待つ予定です。

塩町教会ではよい機会なので、できるだけ多くのフィリピンの方々に参加するよう呼びかけています。

ローマのパパ様も大聖年の準備として債務帳消しキャンペーンを世界中の人々に呼び掛けて居られるし、日本では白柳枢機卿がプロテスタントや他の宗教者そして労働組合の人々又NGO等の善意の方々と手を組んでしかもその代表になってこの運動を進めて居られます。

宮城県内でもこれに応える為に債務帳消しキャンペーン・みやぎ実行委員会が誕生、カトリック仙台司教区教区管理者となり、多くの人々の疑問

を解消し、積極的にこの問題に関わるように宮城県内の教会内外の人達と協力して、三月十四日仙台市婦人会館で勉強会を行いました。

ガイアナから来日されたルイス・スミス氏は国民が知らないうちに、偉い人々が先進諸国から借金したためにその利子の返済のために、子供たちの教育費が削られたり、飢餓にさらされたりする現況、それがさらに地球規模の砂漠化に繋がって行く過程など途上国側の困窮の現状が訴えられた。

また日本でボランティアとして本運動に協力活動している小野行雄さんが、その背景と世界規模での債務帳消しの取り組みが話され、最後に日本聖公会佐藤主教からこの問題はお金の事と同時に心の問題として受け入れる必要があると締めくくられた。

人権福祉委員会より

前号でお知らせしましたように、信徒向け文書の点字版及び朗読テープの作成にあたる、教区内作業グループの発足をめざして準備をはじめ

人事 (司祭異動)

(TEL) FAX(022)22314175

- ☆石巻教会主任(休養) 首藤正義神父、☆勿来教会主任代行(研修) 田中丈夫神父
- ☆四ツ家教会協力司祭(会津地区担当) 小松史朗神父
- ☆フエリペ・ケバスIIグアダルーベ宣教会、☆仙台中央地区協力司祭(新司祭) ダヴィデ・ウリペII同会、☆水沢教会協力司祭(一本杉教会) ララ・マヌエル・ファルファII同会、☆グアダルーベ会本部(中央地区) エミリオ・フォルトゥール

ゼノ修道士の生涯を描いた長編アニメーション映画「ゼノーかきりなき愛に」が、このほど完成、次の日時に上映されますので、皆さんおさそい合わせて下さい。六月二十五日(金)夜七時、二十六日(土)昼イブミティ21大ホール。